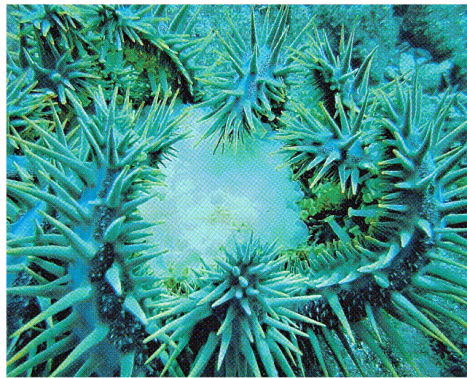
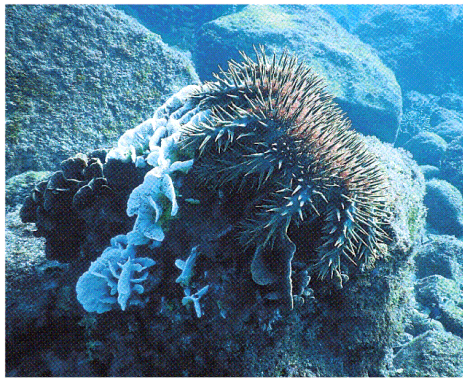




㊦シコロサンゴを食べるオニヒトデ㊦裏返した胃袋を押し出してサンゴを食べるオニヒトデの腹面。中央の白い部分が胃袋

オニヒトデ

学名 *Acanthaster cf. solaris*

- 分類 アカヒトデ目オニヒトデ科
- 大きさ 最大で直径60㌢
- 分布 インド洋および太平洋のサンゴ礁域
- 食性 ミドリイシなどのイシサンゴ類を好んで食べる
- 特徴 10～20本もの腕をもち、ヒトデ類では唯一毒のとげを持つ。とげは鋭く強靱で、長いものは6㌢ほどもある。刺されると激しく痛み、アナフィラキシーショックで死亡した例もある。幼生は植物プランクトンを餌にして海を漂う。2～4週間で海底に降りてヒトデの姿に変態。1年ほど石灰藻を食べ、成長するとサンゴを食べようになる。時に大量発生しサンゴを食べつくすため、駆除の対象となっている。

大量発生に人間が関係？

体を埋め尽くす鋭いとげに、鮮やかな赤色や青灰色。いかにも危険そうな風貌を持つヒトデが、サンゴに群がる様は衝撃的です。引きはがすと、口から出した胃袋でサン

ゴの肉を溶かして食べています。とどろりと糸を引く褐色の肉の下には、まぶしいほど白いサンゴの骨が見えました。真っ白な骨だけ残るのは、食べられて間もない証拠です。

2005～10年頃、県本土周辺の海ではオニヒトデが大発生し、たくさんのサンゴが被害を受けました。サンゴ群集が失われると、サンゴを食べたり、すみかにしたりする生き物もいなくなり、生物多様性が大きく損なわれます。サンゴや生態系を守るために、多くのオニヒトデが駆除されましたが、10年以上たった今でも、美しいサンゴ群集は戻っていません。

おもしろ生き物図鑑

かごしま水族館から

オニヒトデはとても怖くて悪い生き物なのでしょう。オニヒトデも200万年以上前から、サンゴと暮らす生態系の一員です。大量発生が確かな仕組みは分かっていますが、人間の活動で海に流れた栄養塩で植物プランクトンが増えます。それを餌とするオニヒトデの幼生がたくさん生き残ることが、原因の一つと考えられています。

「当たり前前に生きているだけなのにね」。憂鬱な気分がオニヒトデを取り除いた指先に、「瞬」とげが触れました。とげは手袋を突き通し、数ミリ刺さっただけで腫れあがった指には、2カ月たっても鈍い痛みが残っています。(展示課 学習交流係長・出羽尚子)